音楽科 学習指導案

大阪府立〇〇高等学校

1. 日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇時限
2. 場 所 音楽室
3. 学年・組 第1学年〇組 (〇名)
4. 題材名 ギターアンサンブルに挑戦しよう
5. 題材の目標

(1) 【知識及び技能】

曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける。

(2) 【思考力、判断力、表現力等】

音楽を形づくっている要素（音色、速度）を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもつとともに、アンサンブルの特徴を生かした音楽表現を創意工夫する。

(3) 【学びに向かう力、人間性等】

ギターの音色や奏法の特徴、ギターアンサンブルに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。

6. 教材観

「カントリーロード」(作詞・作曲：B. ダノフ、T. ニヴァート、J. デンヴァー) ※サビのみ

1971年に発売され、ビルボードで全米2位を記録した大ヒット曲である。現在でも多くのミュージシャンによってカバーされており、またCMや映画などで多く使用されているため、生徒もなじみのある曲である。主旋律はソ、ラ、シ、レ、ミの5音、使用するコードはG、D、Em、Cのみで比較的押さえやすく、ギターが未経験の生徒でも取り組みやすいため、初めてのアンサンブルに挑戦しやすい教材である。

7. 生徒観

(略)

8. 指導観

指導にあたっては、3時間めまでに「カントリーロード」の主旋律とコード弾きを学習し、本時である4時間めでは、アンサンブルをする上でテンポをそろえることの大切さに気付かせ、テンポを意識しながらペアで演奏するためにはどうすればよいかを考えさせる。アンサンブルを通して、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、それらを通して音楽を演奏することの価値や楽しさを感じられるようにすることをめざす。

9. 題材の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
①曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。 ②曲にふさわしい奏法、身体の使い方、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。	音楽を形づくっている要素（音色、速度）を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもつとともに、アンサンブルの特徴を生かした音楽表現を創意工夫している。	ギターの音色や奏法の特徴、ギターアンサンブルに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

○：総括的評価（記録に残す評価）
●：形成的評価（指導に生かす評価）

10. 題材の指導と評価の計画（全5時間）

時	学習内容	評価の観点			主な評価規準 (評価方法)
		a	b	c	
第1時	ギターのコードについての基礎知識を学ぶ。 4つのコードの押さえ方を習得する。	●			【a】－① (器楽表現、ワークシート)
第2時	「カントリーロード」の主旋律を演奏する。	●			【a】－① (器楽表現)
第3時	「カントリーロード」のコードを演奏する。 主旋律とコードにわかれてそれぞれの技術を高める。	●		●	【a】－① 【c】 (器楽表現)
第4時 (本時)	アンサンブルにおいてテンポをそろえることの大切さを意識して、「カントリーロード」を主旋律とコードのアンサンブルで演奏する。	●	●	○	【a】－② 【b】【c】 (器楽表現、ワークシート)
第5時	「カントリーロード」のアンサンブルの演奏を発表する。	○	○	○	【a】－② 【b】【c】 (器楽表現)

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

アンサンブルにおいてテンポをそろえることの大切さを意識して、「カントリーロード」を主旋律とコードのアンサンブルで演奏する。

(2) 本時の評価規準

【a】－② 【b】【c】

(3) 本時の準備物

ギター、ワークシート

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 7分	<p>○本時の目標を確認する。 「テンポを意識してギターをアンサンブルで演奏しよう」</p> <p>○主旋律とコードのテンポが合っている演奏と、合っていない演奏の2つを聴き、どちらが良いか、なぜそう思うかを考え、ワークシートに記入する。</p>	<p>○テンポに関する簡単なクイズを通して、アンサンブルをする上でテンポをそろえることの大切さに気付かせる。</p>	<p>【b】【c】 (ワークシート)</p>
展開 40分	<p>○アンサンブルでテンポをそろえるためにはどうすればよいか、まず個人で考え、次にペアで話し合い、全体で共有する。</p> <p>○第2時の学習を振り返りながら「カントリ一ロード」の主旋律の演奏を復習する。 (個人練習→全体で合わせる)</p> <p>○第3時の学習を振り返りながら「カントリ一ロード」のコードの演奏を復習する。 (個人練習→全体で合わせる)</p> <p>○主旋律とコードのアンサンブルの練習をする。 (ペア練習→全体で合わせる)</p> <p>○さまざまな楽曲を通して、テンポを合わせることを意識しながらアンサンブルの演奏をする。(「新時代」「Lemon」「千本桜」等)</p>	<p>○生徒の考えを幅広く引き出すために、さまざまな問いかけを行う。 「テンポがずれる原因は何だろう?」 「どういうときにずれてしまうかな?」 「ペアのギターの音は聞くべき?」 「苦手なコードがあるとどうなるかな?」 「苦手なコードをなくすためにはどうすればよいか?」等。</p> <p>○机間指導を通して、生徒の習熟度に応じた指導を行う。また、先程の発問の内容を意識しながら練習に取り組んでいるかを確認する。</p> <p>○全員でテンポを合わせられるように、さまざまなテンポで演奏させる。 ○ギターが苦手な生徒には特定のコードを演奏させるようにし、また得意な生徒には全てのコードに挑戦させるようにして、習熟度の違いに対応する。</p>	<p>【b】【c】 (ワークシート)</p> <p>【a】-② (器楽表現)</p>
まとめ 3分	<p>○本時の学習を振り返り、テンポを意識しながら演奏することは、どのような曲でも、またどのような楽器でも、演奏する際にとっても大切であることを確認する。</p>		